

No. 46 【2013年2月22日配信】

浅虫温泉と浅虫水族館 (担当:鈴木)

まだまだ寒い日が続いていますね。こんな時はやはり温泉が一番。青森には日帰りを含め、たくさんの温泉がありますが、今回は浅虫温泉と浅虫水族館についてお話したいと思います。



柳の湯

浅虫温泉は平安時代に発見されたとされる古い温泉地で、藩政時代には「御本陣」(現 柳の湯)が設けられていました。

旅館として最も古い椿館は貞享4年(1687)以前の創業です。ここには明治9年(1876)、明治天皇が東北北海道巡幸の際に休息されました。この巡幸以前、浅虫から青森へ向う街道は、現在の善知鳥トンネル海側の、善知鳥崎という波の洗う磯に板を渡した難所を通るか、山中を通るかありませんでしたが、前年の明治8年に開削工事が竣工し、久栗坂に至る道路が整備されました。

明治35年(1902)の八甲田雪中行軍遭難後には、生存者が青森衛<sup>えいじゅ</sup>戍病院退院後に浅虫で温泉治療をした結果が良好だったため、その効能が世に知られたともいわれています。やがて大正初期、第一次大戦の好況期には駅前に旅館などが増え、芸者さんも出入りする賑やかな温泉街となりました。

大正13年(1924)に、裸島付近に「東北帝国大学浅虫臨海実験所」(現 東北大学大学院生命科学研究所附属浅虫海洋生物研究センター)が設置され、その附属水族館は、昭和58年に県営浅虫水族館がオープンするまでの60年間、長く市民に親しまれました。



水族館と裸島  
(市史編さん室所蔵の絵はがきより)

昭和2年の『東奥日報』の記事を見ますと、冬場は休館していたようで、春5月上旬にオープンし、同月の浅虫観桜会、湯の島の島開きの際は夜間も開館し、電飾に照らし出される魚類を楽しんだようです。今も浅虫水族館では「夜の水族館」の企画が行われていますが、85年以上も前にあったとは進んでいますね。この時には街中が電灯で飾られ、「夜の浅虫は不夜城の壮観」との見出しがあります。

そのほか、花火の打ち上げや芸者さん達が「魚族」に扮した仮装行列もあり、ずいぶんと賑やかだったようです。また当時、付近に動物園を創設し、青森に生息する水陸両方の生物を網羅してはという案もあったようです。水族館には淡塩両水の珍しい生物がいましたが、「珍中の珍」として「食用金魚(蔦沼産)」が挙げられています。いったいどんな金魚だったのでしょう？

昭和 37 年 10 月 1 日、旧野内村の青森市合併で浅虫地区は青森市となり、その後、道路や海岸も整備され観光地として発展してきました。旧水族館のあった浅虫臨海実験所に至る通りには、「明治天皇御休御跡」や名勝「裸島」などもありますので、往時を想像しながら散策してみるのもいいかもしれません。

また、平成 20 年には柳の湯近くの源泉地に、「源泉公園混浴足湯」と「温泉たまご場」ができ、休日のちょっとしたレジャーにお勧めです。寒さが緩んだら、卵を持って行かれてみてはいかがでしょうか。なお、浅虫について、『新青森市史』通史編 2 の「温泉と村落 - 浅虫村 -」でも触れておりますので、ぜひご覧いただければと思います。



浅虫源泉地の「源泉公園混浴足湯」と「温泉たまご場」